

## ティーチング・ステートメント

所属：未来デザイン学部人間社会学科

氏名：塚崎 今日子

作成日 2024年2月26日

### 【責任】

所属は未来デザイン学部人間社会学科だが、授業としては、全学共通の基本教育科目にあたる1年次の「日本語表現法Ⅰ（読解・論文）」、「日本語表現法Ⅱ（分析・考察）」、2年次の「日本語表現法Ⅲ（討論・発表）」を担当している。またキャリア支援を行う3年次の「ビジネススキルⅠ」において、就職試験（SPI試験）の言語能力分野対策講座も担当している。

人間社会学科においては、「文化人類学」の授業を担当し、1年1クラスの担任をしており、ゼミの指導も行っている。

釣り同好会の顧問を担当している。

### 【理念】

大学生活全般の学び、そして社会で出てからも求められる能力のうち、最も重要なものの一つである「日本語力」を学ぶ授業をとおして、以下の3つの力の育成を図る。すなわち、「自らの言葉で論理的に考察する思考力」「考えたことを自分の言葉で分かりやすく伝える表現力」「言葉を通じて他者と相互理解を図り、合意形成を築くコミュニケーション力」である。

さらに、技能の習得にとどまらず、身につけた日本語能力を通じて、自分以外の多様な他者に対する理解を深め、そこから翻って自分自身について改めて省察することの重要性などについても伝えていければと考える。

文化人類学の授業においては、異文化理解を通して、現代において必要とされる多文化理解、さらには自文化「再」理解の意義を伝えていきたいと考える。

### 【方針・方法】

上記の理念の実現を目指し、日本語表現の授業においては「思考力」「表現力」向上のため、以下の方法で教育実践をおこなっている。

・言葉の基礎知識を身につけさせる

・語彙力をつける問題演習：毎回の授業で基礎的な語彙（同意語、反意語、慣用句、敬語の知識）の問題に取り組み、確認テストを行う。

・文章作成演習：さまざまなテーマで、小論文やレポート作成を行い、自らの考えを論理的に表現する演習を行う。

- ・文章読解と要約文作成演習：さまざまな文章の読解と要約を行うことで、情報を正確に把握し、多様な考え方を理解する。
- ・小論文やレポートの作成を通して、他者の意見やテーマの背景知識を調べて理解を深める。

#### 【成果・評価】

- ・授業評価アンケートにおいて、授業方法に対して肯定的な回答が8割程度を占めた。
- ・レポートが形式面・内容面ともにレベルアップした。
- ・レポートの引用と出典についての認識を高めることができた。
- ・要約技術を高めることができた。
- ・学生におけるアカデミックライティングの重要性についての認識を高めることができた。

#### 【目標】○短期目標

- ・文章読解能力を伸ばすのに特に有用とされる要約課題を増やす。
- ・これまでレポートを再提出させる割合（クラスによっては3割程度）が多かったので、授業内におけるレポート指導を充実させることにより、再提出割合を下げるようにする。

#### ○長期目標

- ・読書の習慣化を促す。
- ・日本語表現法で身につけた知識の日常的な実践